

刊夕日八月九



定価 一月五圓 三月十五圓 半年三十圓 一年六十圓
 電話 五五五 五五五 五五五
 印刷所 常磐印刷株式會社
 發行所 常磐印刷株式會社
 社址 平野町三丁目

戊辰役の回顧

平陽 老人

四、泉沼る

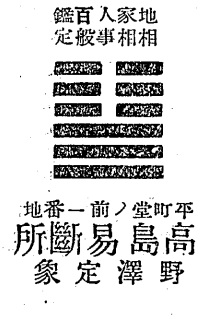
六月二十八日西軍泉城を襲はんとして兵を二分し、一隊は植田より海岸を経て小濱(鮫川村)に迂回して泉に向ひ、一隊は平本道より進む、泉城主本多能登守は西軍平沼に上陸し關田に進むと聞き、既に仙臺に走り唯一小隊の兵を止むるのみなりしかば城遂に陥る、西軍勝に乗じて仁井田峠に襲來す、仙臺、平、相馬等の兵林兵と山上を守る、然るに諸隊守を棄て、遁れ、林兵獨り固守す、西兵進みて丘上に出没し連りに射撃し隊士大野禰十郎之に死す、全軍仁井田峠の西方に下り頃、西兵已に仁井田に入り頻りに銃を發す、前軍潰崩して再び峠上に登り來る、澤録三郎大聲激勵して曰く何ぞ怯懦斯の如くなる、敵兵仁井田を占領せば撃破して過ぐべし、然らずんば再び活路を得べからずと、頻りに激戦せしめんとすれども能はず、彌々潰亂して路傍の叢中に潛匿す、會て林隊士小幡直次郎負傷す、全隊日没を待ち平城に歸らんとすれども本道は悉く西兵の占領する所と爲り纒に山

五、湯長谷陥る

六月二十九日西軍湯長谷に迫る、東軍矢板坂の嶮に據る西兵間道より回りて背後を衝く、東兵支ふること

ノット

鐵瓶は胡 桃を布に 包んで拭いてゐると汚點が出ない



能はず、退いて湯長谷に入る、城主内藤長壽丸家臣を率ゐて之を守る、守山棚倉の兵及び純義隊、彰義隊赴き援ふ西軍備前、佐土原、柳川の兵仁井田より植田を

○明日の献立
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

【朝】煮びたし—芋ずみき 油揚

【晝】にしめ—高野豆腐 ます

【晚】ひし肴—生鮭作り肉 はじき板豆 つぶ椎茸 うすあんかけ 生姜

過ぎ來りて湯長谷に迫る、湯長谷兵壘壁に據り寡兵を以て大敵に當る、此の時海

九月九日戊寅七赤友引取る【一】病氣怪俄紛失盜難に注意して理状維持か吉【二】營業上に吉なるも水火の難と印形書附に注意を要す【三】努力して功なき不平の事あるも忍耐すれば吉水火の難に注意【四】新古の件に纏れを來す事勿れ新企に進て利を得るの【五】黄【金談縁談共に大吉我が望事を達し昇進を得るの【六】我が望事及金談縁談等は他人の應援を得て吉を得る【七】赤【氣運滞滯萬事抄々しからざれば現狀維持て明日を待つ可し【八】白【金談縁談に奔走して吉を得る【九】紫【我が望事に大利を得る日只目上の者の怪俄に注意

外科

門 專
 科 線 光 X
 上田外科醫院
 平野町南町
 電話一二九番

磐城共濟病院

電話(六四)一四二番

内科	小兒科	婦人科	皮膚性病科	耳鼻咽喉科	X光線科	物理療法科	藥劑局	衛生試驗所
院長 石山謙郎	副院長 五十嵐雄二	部長 有馬勇二郎	部長 石山謙郎	部長 石山謙郎	部長 石山謙郎	部長 石山謙郎	部長 石山謙郎	部長 石山謙郎

貸家

此度裏手に新築移轉する事になりました。就きましては従来の店舗をお貸し致しますから、御希望の方は御來談下さい。如何なる商賣にも適します。

平野町四丁目三九

新妻文吾

◇在庫品整理の爲め大廉賣致します。

内外全科

醫學博士 渡部義夫

小兒科

女 醫 渡部きい子

内科

平野町大通り(電話二七七番)

渡部外科

入院應需

吉田眼科病院

平野町南町
 電話六八番

父易興儀豫て病氣の處養生不相叶六日午後十時四十五分永眠致候間御通知に代へ此段謹告仕候

追て葬儀は來る十日午後二時自邸出棺良善寺に於て佛式相營み可申尙遺志により供花放鳥等御辭退申上候

九月七日

平野町四丁目
 嗣子 百澤才八郎
 親戚總代 加藤丈夫

吸入用酸素

純度 99%

度量衡 モノサシ
 ハカリ ス

秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス

關内藥局

電話四〇番

寒暖計

戦線五里に亘り

平町へ突撃

大規模な警中發火演習

例年十一月初旬行はれる警中の發火演習は非常時だけに今年は大々的に行ふべく目下計劃中であるが同演習は平町を中心に戦線約五里にまたがり輕機關銃數臺を參加せしめ成辰戰役を型取つて行ふ豫定である

赤井信用協議

石城郡赤井村信用購買組合では来る十日午後一時より同村第一小學校に於いて協議會を開き組合事業の擴充方針の確立に就いて打合せると

産米相場保合

きのふ大浦の共販

石城販賣利用組合大浦農業倉庫の共同販賣は去る五日午前九時より同所に於いて行はれ總數二百五十俵を入札に付した結果四等健値八圓二十錢を以つて四倉町の渡邊丑五郎氏に落札されたが前回と同値を見當分急激

な相場の上下はないものと見られて居る

労働統計調査

事務指導

多忙な各町村

来る十月十日全國的に催される十月十日全國的に催さ

滿鮮から一筆

(七)

釜山公會堂にて

伊東

平壤では有名な牡丹臺を見た、日清戦争でも秀吉の征韓の時の話題にもなつて居るが中々の風景であつた、風景と云へば朝鮮の海岸は至る處景色のよい處が多い、鎮南浦仁川京城も見た、別に變つた所として仁川の港船が港の

水路へ入つては閉ぢると云ふ千潮の關係か何かでそんな風に出來てる、港と京城の市街の賑かさだ、さすが日本式で支那とは違ふ美麗だ、いくら不景氣でも安々と商業が出來ると云ふ風がかゞはれる、是もお國の爲だ、茲では十錢の

工場職工九百七十二名に達して居り去る昭和五年の第三回實地調査當時よりは相當増加を見て居るので目下各町村では調査員指導員を擧げて準備を急いで居るが縣では調査員指導員等の事務打合の爲め来る十一日頃平町にて打合せ及び事務の指導會を開催する豫定である

神宮競技を目標に

勇躍の平商軍

中等校庭球豫選へ出場

平商庭球部では来る十七日福島市に於いて開かれる縣下中等學校明治神宮出場豫選庭球大會に際し過般縣下及び北日本大會に優勝した安島木田組の出場權を認めると否や本日問合せを發したが若し認められざる場合は同豫選會に出場すると

田村農會員

石城を視察

田村郡農會員七十名は来る二十三日の兩日石城郡農會の幹施で郡下の模範農事經營狀況を左の日割で視察する

(十三日)赤井村矢野三平方、内郷村磐城坂、泉村志賀澤之助方、植田養

そこへ行くとき磐城の濱の人の中通りと東京と地元の人を相手に商して居るだけで

進化がない

羅津等滿鐵の北韓根據地とする丈に茲半年ばかりで非常な發展で地代さい坪月三十錢と云ふて位だ、入込む人はお金がかつて居る様に思つて、遠く北海道、樺太邊から家財たんで來て失望し居る人が多い。

なく停學處分に附するとの事である

圖書展覽會

けふ平一校で

平第一小學校では本日午前九時より講堂に於て全校児童に對する夏休みの宿題である夏の圖書展覽會を催した入賞児童は左の如く學校賞は五年三組稲島正君に授與された

福島、茨城の

選抜野球

植田に開く

福島民報、福島民友、いはらき三社平支局主催の福島茨城選抜軟式野球戦は来る十日、十一日の兩日植田小學校庭にて催される

赤土内務部

河川工事視察

赤土本縣内務部長は本八日朝平驛發列車にて來郡藤原夏井兩河川改修工事及び神谷農事試験分場を視察して

母磯子儀かねて病氣の處養生不相叶九月七日午後一時逝去仕候に付乍略儀紙上を以て御通知に代へ此段謹告仕候

追て来る十一日午前九時より正午迄紺屋町自宅に於て神式を以つて告別式執行途中葬列を廢し午後二時良善寺墓所に埋葬可仕候

男 山部正勇
山崎與三郎
外親戚一同

社總代世
話人代表

眞？ 疑？

平驛待合室の赤靴の容疑者

平署に檢舉さるる

石城郡内郷村大字宮字金坂居住坑夫鈴木松は去る六日午前三時頃同村字蛭子料理店加藤直三郎方に立掛て有つた時價十圓餘の中古自轉車を窃取し金坂地内を乗逃げ中道路工夫に注意されたので發見されたものと思ひ違ひ自轉車を捨て、逃走し巡廻中の平署員に檢舉されたが去る六日午後一時平驛待合室で現金二百六十圓と二百圓の小切手在中の赤靴を窃取した被疑者として引きつゞき取調中

司法保護の

宣傳デー

十三日に行ふ

平自警會では来る十三日司法保護宣傳デーに當るので當日は會長清田檢事を始め役員一同が夫々自動車に分離し同情なきドン底に落ちてゐる刑罰者を慈愛の綱で引上げませうと印刷したビラ數千枚を管内全部に布き大々的に宣傳する事になつた

客足は多いが

収入は激減

平の映畫界勘定

平町の映畫戲堂としてそれ／＼人氣を呼んで居る平館及び世界館の去月中に於ける興業成績を見ると大人の入場者が一万六千二百三十三名、子供が六千四百五十七名、合計二万二千四百九十名で八月は興業者の夏枯れ期と云ひ乍ら殆んど平町全人口に比する入場者を見たが収入高は入場料の安い大衆興行が多いために二千二百四十六圓六十錢と云ふ冬期

横領組合長

公判續行

来る廿九日

既報双葉郡富岡町毛萱耕地整理組合長佐藤徳右工門(五)に係る詐欺事件の公判は昨七日午前十一時より平

自動車と衝突

内郷と平窪に

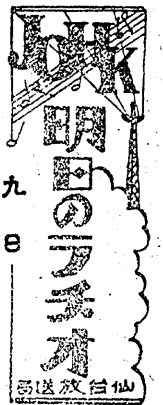
通行人の奇禍

平町新町吉田直之助方運轉手菅本太市(三)は八日午前八時頃内郷村御殿地内を貸切自動車運轉中の歸途前方より來た荷車を避けんとし通行中の警崎村大字馬玉寺寺作佐藤勝秋(九)に衝突し全治二週間を要する負傷を負した、また平町仲町自動車運轉手半田宏(三)は昨七日平窪村下平窪四左衛門地内を運轉中前方を自轉車で疾走中の同村下平窪屋敷五一萩原キヨ(三)に徐行のサイレンを鳴らした際、のサイレンに同人は驚いて運轉を誤り同自動車に衝突し全治五週間を要する重傷を負つた

怖いのは豪雨

神谷分場で注意周知

郡下を襲つた四日夜來の暴風は風速五米といふ強いもので目下結實期にある稲作は強風のたためられて了つたものも相當あるので神谷農事試験分場は目下被害状況を調査中だが早天續きで水田が乾燥して居るから強風の被害は少ないが今後降



今晚の部

後六、〇〇(子供の時間) お話「ライトからポストまで」小川格
後六、二五 傳説と史蹟を採ねて(二十二)「謂山から徳島城主の傳説」森本安市
後七、三〇 講演「その時々」の世界的縮圖」永井拓
九日午前九時より開廷する事にして閉廷した

明日の部

前六、三〇 基督教講座「キリストの生活觀」終講 尚綱女學校長川口卯吉
前七、三〇 夏期ドイツ語講座(終講)三浦吉兵衛
前九、一〇 料理献立「みたらしずし」佐藤つぎ
前一一、三〇 家庭講座「齒の疾患は恐るべき全身病の原因となる」岡浪之助
後〇、〇五 浪花節「乃木將軍墓參」朝日大和丸
後一、二〇 東京大學野球リーグ戦(法立、慶帝各一回戦)神宮球場より中繼

無文の大盡

平署に突出さる

石城郡湯本町裏町備中屋旅館へ去る六日午後五時頃東京市日本橋區横町加納商店員加納庄吉(三)と稱して投宿した男が昨七日朝家人が宿料と飲酒代八圓餘の支拂ひを請求した處無一文と判り平署に突き出したが餘罪ある見込みである

蛭田川改修速進

關係代表が上京運動

既報石城郡勿來町外五ヶ村を貫流する蛭田川改修工事は豫ねてより猛運動の結果九年度に於いて内務省の中少阿川改修工事に編入されたが地元赤津勿來町長外關係村代表者の一行は同工事の速進運動の爲め昨七日上京金成貴族議員の紹介で主務省に陳情をなした

列車の黒鼠

平署に捕る

岩手縣岩手郡松尾村字中村尾佐々木長四郎(三)は去る五日午前八時頃平驛着列車内で乗合せて居た好間村北好間中根榮所有衣類入風呂敷時價五圓餘を窃取した事發覺平署で餘罪取調中である

銃砲取締違反

けふ拘留處分

石城郡川部村大字沼部字宿

白土會月

喜多流

次温習會

謠曲白

士會では来る十日午後六時より田町稽古舞臺に於いて月次温習會を催すが番組は



【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴演
山本英春畫

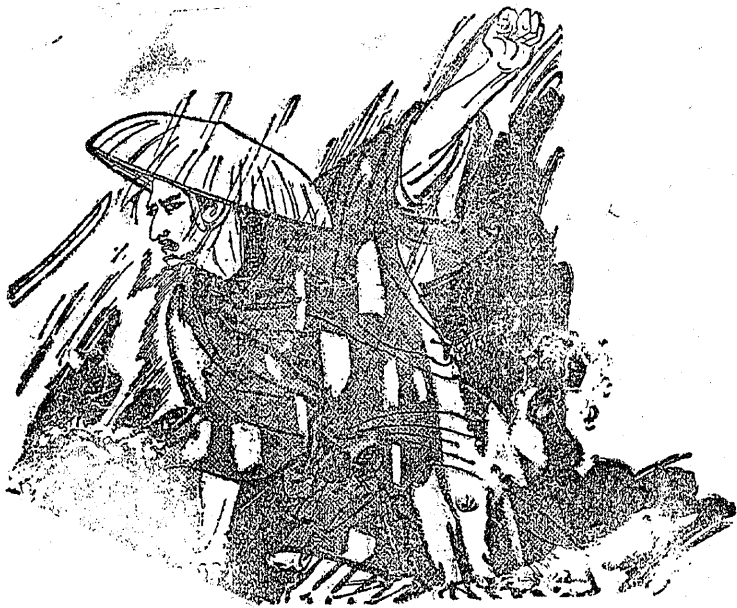
第三十五回 血に飢ゆる村正

源十郎斬り殺さる

井道竹之助が庭前の青石を差さうとして、誤つて取落しましたので、大守悉く御不興の体でございます。正「汝平表より力自慢でありながら、是しきの石を取落すといふ事があるか、役に立たざる奴」と御怒りの様子、竹之助御席に居堪たされず、ソコソコに退がりました。是まで間荒小姓の上席に座はりました者が、今日より末席へ下げられる、竹之助益々驚き、御次に控へて居りますも何となく気がワクワクする様な具合、是非なく御殿を下つて、只今でいふと午後七時の頃ほひ、表へ出ると今日は曇天ではあつたが、最前より俄に降出した雨、幸ひ雨具の用意は致し仲間一人が赤合羽を着け、饅頭笠を冠り、箱提灯を持つて先きへ立ちました。竹「彌助氣を附ける」彌「恐れ入りました」

竹「イヤ彌助、飛んだ事を致した、詰所へ紙入を忘れて来た、行つて取つて来い拙者はブラ／＼参るから」彌「旦那様、暗うございま

すから、一旦私は御屋敷まで御送り申しまして、夫から取りに参りまして、御詰所の事だから失くなる氣遣ひでございますまい」竹「馬鹿を云へ、中に多少金子も這入つて居る、人心



は表面からは見えんもの、紛失でもすれば夫ツきりだ何でも貴様は主人の言附を背くな」彌「左様ではございまいけれど」竹「早く行つて来い」彌「夫では提灯を持つてい

らつしやいますか」竹「ナニ提灯、其方は不埒の奴だ、福島荒小姓の一人十八人の上席を勤めた井道竹之助如何に今日末席に下ると申して主人に提灯を持つて行けとは何だ」彌「イヤ御暗うございましてお困りと存じて」竹「暗くとも宜い、武藝鍛錬いたした者は、暗夜でも五間や八間先は見える、愚圖々々いはずと早く行け」腹立ち紛れの八つ當り、彌助は途中から引返して詰所まで紙入を取りに参りました。竹之助は、徐に歩ん

で参りました、二の丸外少しく吹降ちになつて参りましたから、差して居る遊蛇の目の傘を斜めに致して雨を避けて来る、向ふからビシヤ／＼駆けて参りました一人、竹之助にドーンと突き當つた

竹「何者だッ」と見ると、先方は赤合羽に饅頭笠、何分降り強いものでございませうから、下を向いて駆けて来たので、誤つて突き當つたものと見えます。竹「何だ貴様は」彌「甚だ御無禮を致して恐れ入ります、此通りの降りでございますまして、提灯はなし、ツイ失禮致しました」彌「手前は勝平太の組足輕馬淵源十郎と申します者で」竹「勝平太の組足輕馬淵源十郎以下の者か、無禮の奴だ、拙者を何と心得る福島十八人荒小姓の上席井道竹之助へ無禮を働いて、其分で済むと思ふか」源「ツイ暗夜のために失禮をいたしました、どう御勘辨を」竹「成らん」

と突然柄に手を掛け、抜き討ちに斬り付けました、驚いた馬淵源十郎は「御免下さいませ」と云つて逃げやうとしたが、間に合いません、無惨にも肩先より乳の下掛けて斬り下した、固より腕前勝れて居ります竹之助が怒りに乗じて斬つたる事ゆゑ、何かは以て堪るべき、キャツといふ聲が此の世の別れ、哀れむべし馬淵源十郎は其儘それへ打倒れました、飛掛つて止めを刺し竹「不埒の奴だ」と云つてゐる所へ漸う彌助が歸つて参りました

彌「エー旦那様でございませうか」竹「彌助か」彌「ヘエ持つて参りました恰度彼方まで往かん中に、野本の仲間が屈けて呉れるつもりで、途中で逢ひましたから、モシ旦那様、何でございませう其光るの」竹「只今拙者へ無禮を働いた馬淵源十郎といふ以下の者を斬つて捨てた、右の次第を屈けるやう致せ」彌「マアどうも飛んでもない事をなをなさいました」竹「イヤ諸士へ對して足輕の身分で無禮を働けば、無禮討に致すは當然の事、何の差支へがあらう、早々番所へ参つて此事を屈ける」と言ひ捨てたなり一刀の血を拭ひ、鞘に藏めて井道竹之助は其儘家へ立歸る、此方は彌助から右の次第を見張番所へ届けましたから番所に控へて居りました者早速夫れへ参つて見ると、二太刀で息が絶えて居る。

御用命は印刷物の
常警毎日印刷株式會社
電話三六〇番

専門 内科一般
川井内科診療所
時代ハ有價證券デス
帝都證券株式會社平支部
鈴木醫院
外務社員採用
初任固定給 月三十圓
吉田仁三郎